



手づかみで買はれてこそその秋刀魚かな

吉原瑞雲

昨今、高値の秋刀魚は宝物のように扱われる。そのことが作者は不満なのである。昔は手掴みで「こんだけ」と言い、安価で庶民の味方だったなあ。



クワガタのチクチクとして心地いい

山下正純

少年の頃の思い出でしょうね。正純少年にとってクワガタは親友だった。クワガタを見ると、当時の皮膚感覚が蘇る。最も強い印象が俳句になった。



パトカーに付き纏われる厄日かな

下嶋四万歩

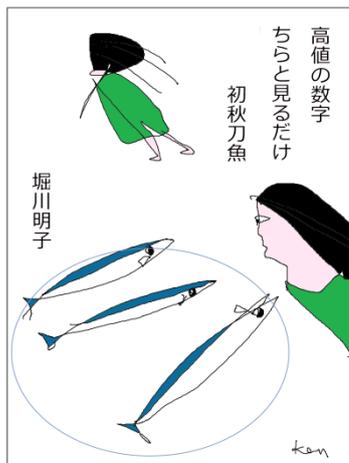
厄日とは俳句では「二百十日」のこと。農家にとっては特に要注意の日。パトカーを見かけた時も要注意。疑いの目で見られることも確かに厄日。



駅を出で西日のあいさつお呼びでない

土屋泰山

駅にある西口と東口。夕方、西口から出れば大方こんなことに。西日は待ち伏せしているのである。西日に悪意はないの
だろうが、挨拶も迷惑。。



高値の数字ちらと見るだけ初秋刀魚

堀川明子

「店頭や秋刀魚を見ずに値札見る」という奴だね。ニュースで
高値と知っていても値札を見て確認。これが松茸だと、最初か
らチラとも見ない。



夕焼道我が影あしながおじさんに

本門明男

西日を背に受けて立つと足長になる。愉快だ。『あしながおじ
さん』の小説にもつながり優しい気分にもなる。よし、裕次郎に
なりきって帰るか。